

おとぎの森の
からきつね



TORAKITSUNE IN OTOGI-FOREST





目を解われた

強くて

気高くて

そして
おそろしい

この森の



美しいけもの

神様かと思った

サンジさん

こつちへ
いらつしゃい

奴に近付いちゃ
いけません

神様だなんて
とんでもない

殺戮者ですよ

あなたはもう
覚えていないかも
しれません

おじいさんの
足を食い
あなたの片方の
光を奪ったのが
あいつらです

神様？

そんなものじゃ
ありません



ゾーロツ!



私たち一人前に
なるまでは
大人達の縄張りから
出ちゃいけないって

何回
聞いても
わかんない
のね



そんなに
コソコソ



こんなに
毎日毎日遊んでて
大人にばれたら

そこ
食べられ
ちゃうわよ

また
狐ちゃん?



くいな





いいよ別に

おれが
守るもん

な…なによ
バカじゃないの
…!!
ガキのくせに!

バカバカ
うるせえ!

カキッ
カキッ
カキッ

たがきこぎ!!



うん

すんげえ
かわいいの



全然わかんない
あんたって本当
変わってるわ

狐の子って
そんなにいる?



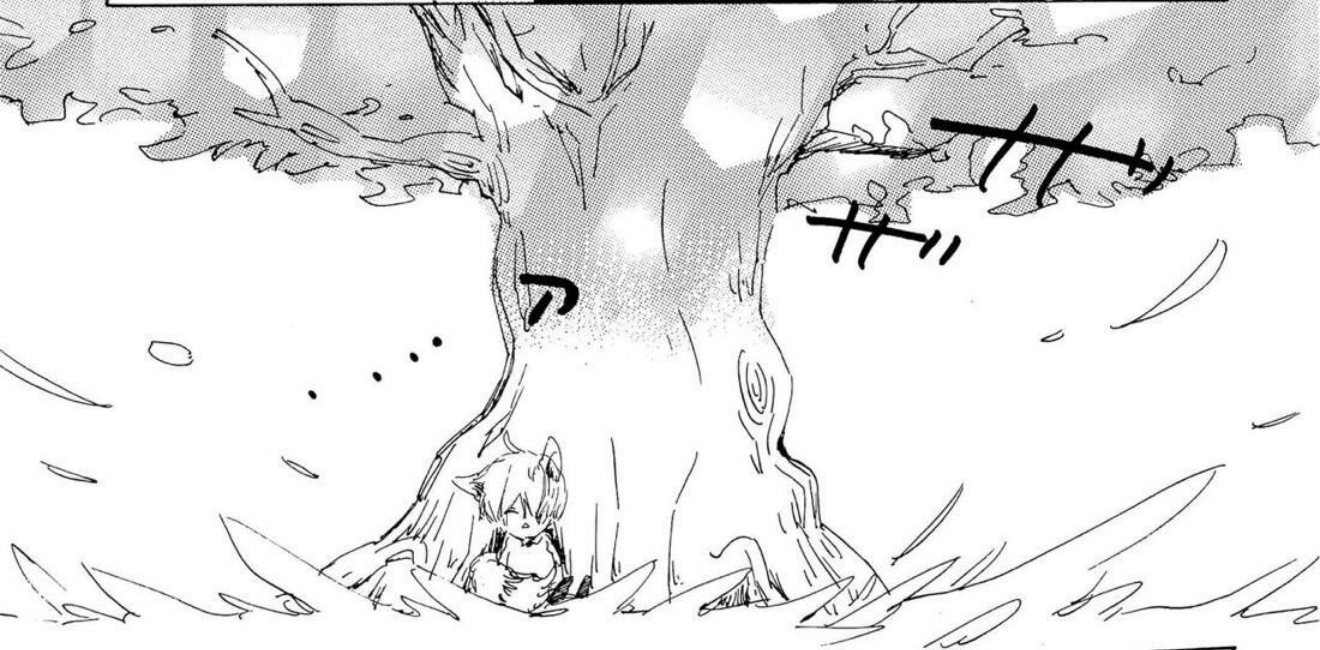
ア!!
ア!!
カキッ

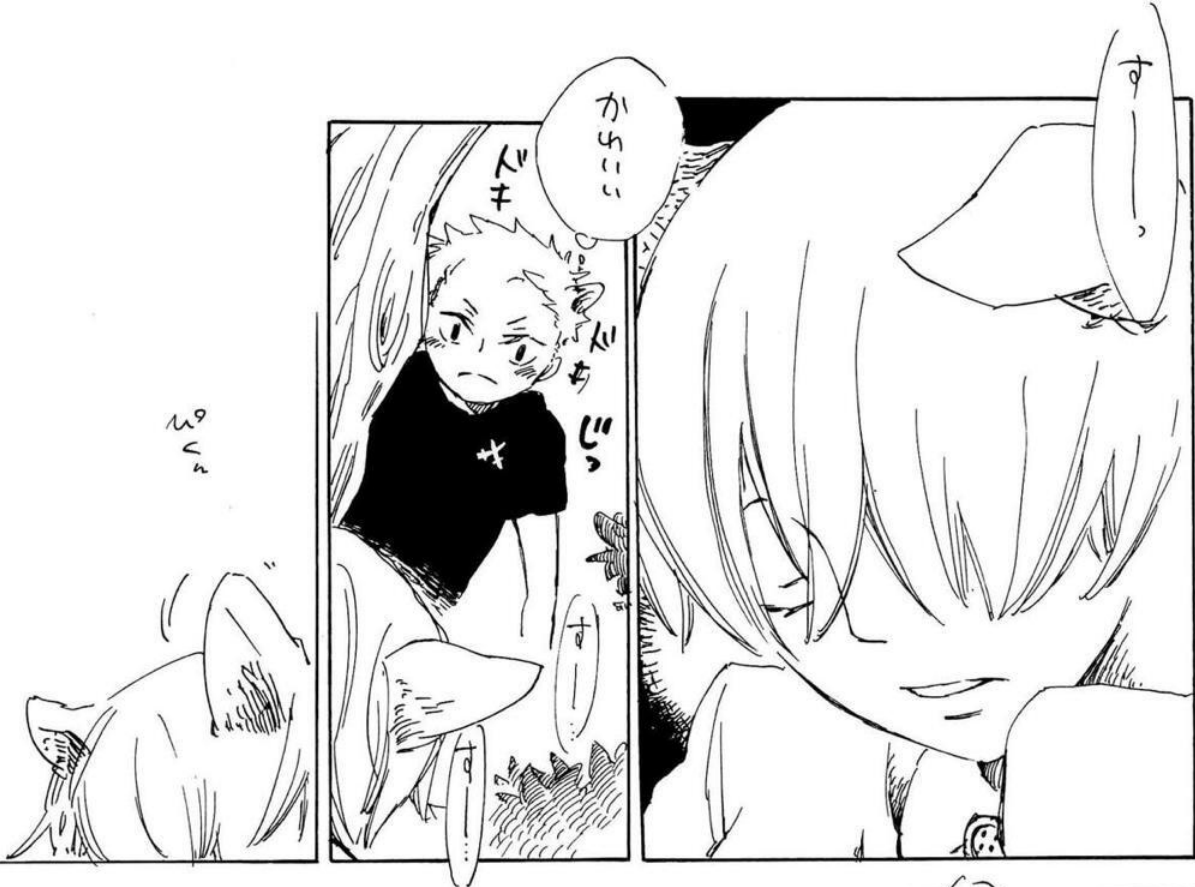
「サンジ」は
片目のないキツネだ

前に傷跡を
見せてもらったけど

多分
やったのは
おれの仲間だ

「虎」



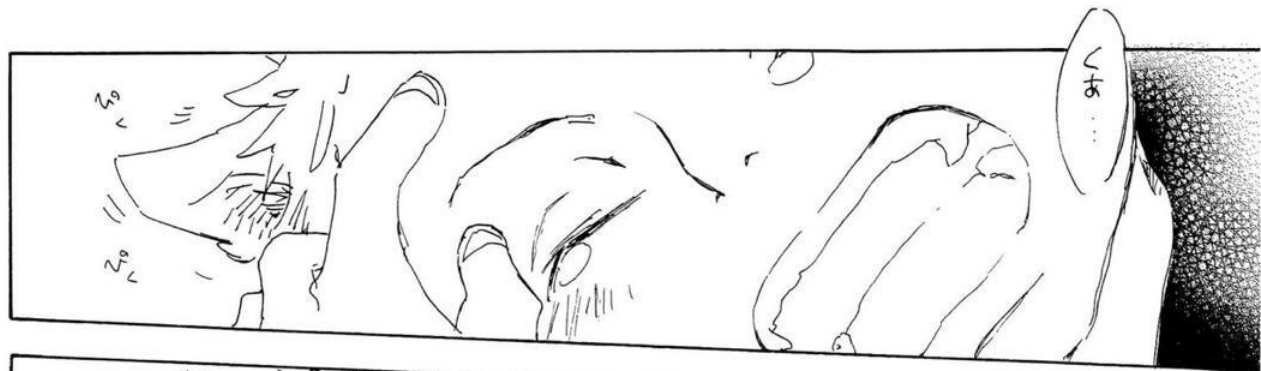




サ
ッ

サ
ッ

サ
ッ



くま
...



草の色



フ
フ
フ

春に新芽が
芽吹く色

命の色

ほかのだれも
もってない



不思議な色だね
おれこんな
毛並みのいきもの

ソロしか
知らないよ

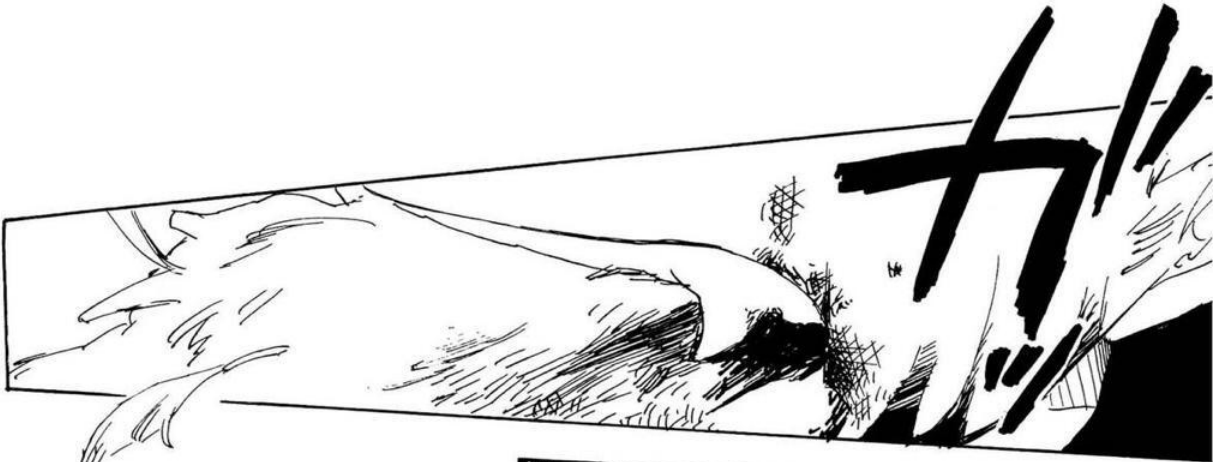
ソロはきつと

この森の
王様になる動物だね

フッ

フッ

フッ



「食事」の時は
いつもサンジに隠れた

ガ
ガ

サンジだつて
肉は食うけれど

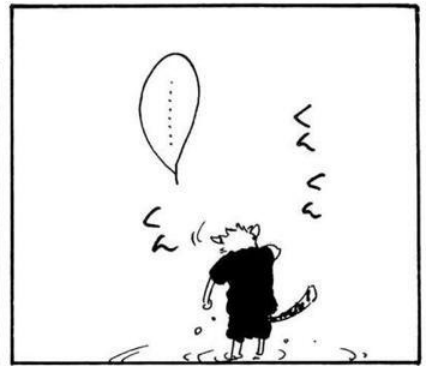


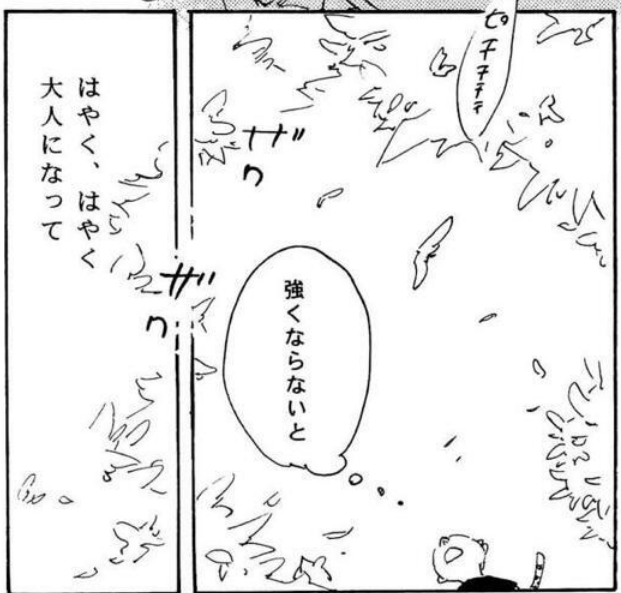
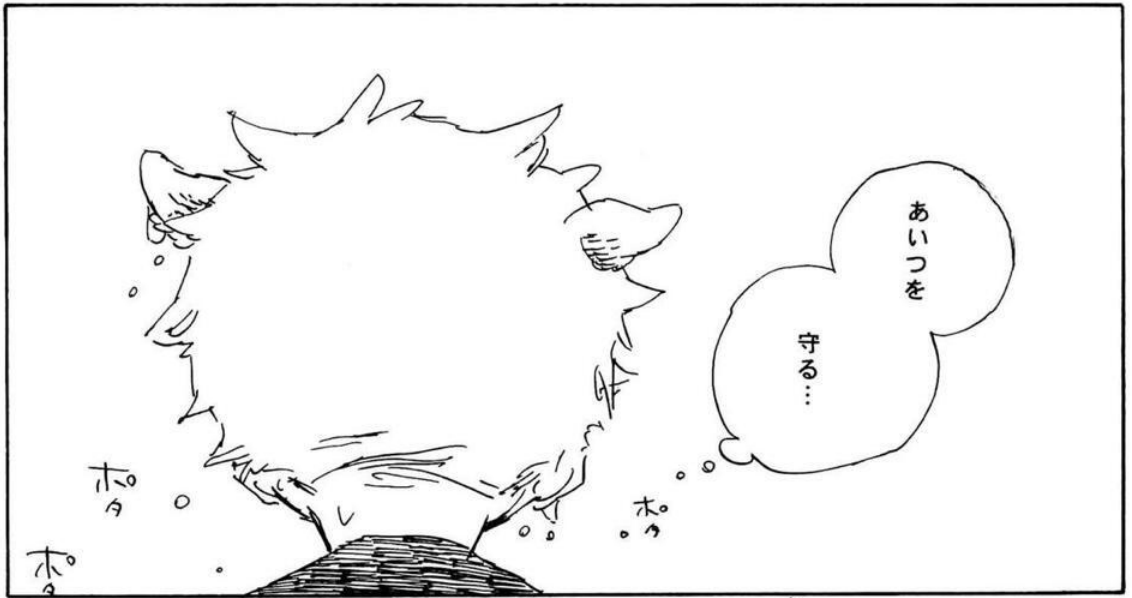
こういうやり方は

あのやさしくきれいな
キツネには
そぐわない気がしたから



うせ





なくした目のぶんも
あいつを幸せにできたらいい



狐のサンジと虎のゾロは
とても仲良しでした

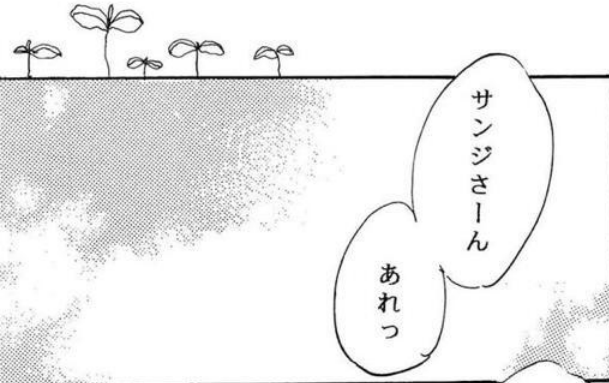
それぞれの仲間たちの
目を盗み
毎日一緒に遊びました

幼い2匹は

稚拙ながらも
子どもらしいやり方で

お互いをそれはそれは
愛していたのです。

森には
ゾロとサンジが
出会ってから
何度目かの春が
来ていました。



サンジさん

あれっ



どうした

いや
ついさっきまで
ここにいたと
思ったんですが

またか

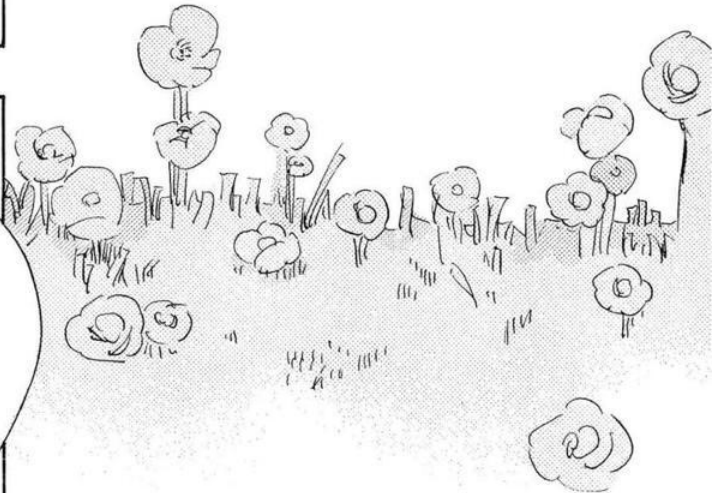
木の穴の中に住んでいいぞ!



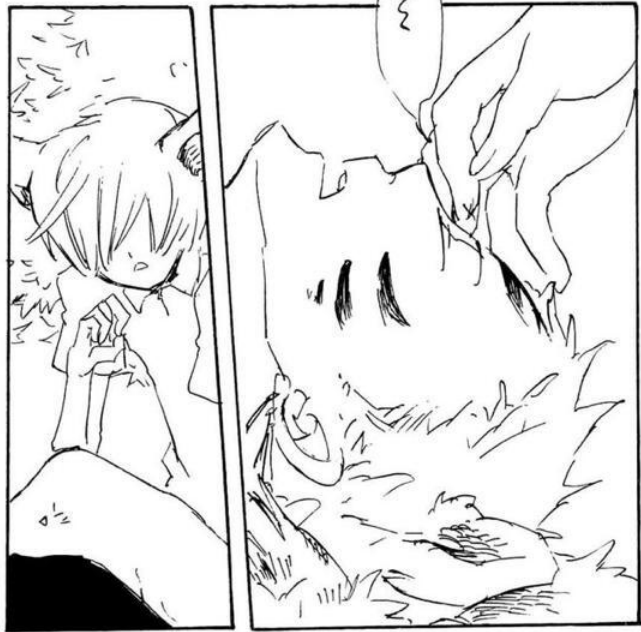
毎日毎日
いつまでも
ガキみてえに
ほつつき回り
やがって

放つとけ
夜にや
腹空かして
帰ってくる

はあ...







小さい頃はなかったのに
いつの間にかゾロの体にできた模様は
段々濃くなっていく

：なんだか
別のいきものに
変わっていくみたい



.....
怖いな

ゾロは
このままがいい
ずっと一緒に
昔と同じに



これから先も
ずっとふたりで...

ゾロ...





おれはおまえと
番になりてえ

え

くっ



これから先も
お前と一緒に
いるには
どうしたらいいか

チユウ
コウ

おれ

おれなりに
考えたんだが



そしたら
番になるのが
一番だと思った



おれの住んでる所は
19になると
一人立ちする

一人前と認められて
自分の自由に
生きていけるんだ

おれはお前と
どこか遠くに
行ってえ

2人で遠くへ行つて
ずっと一緒にいよう



いいだろ？

……ソロ……

うんって言え
サンジ

(ま)

Handwritten scribbles and small circles containing the number '15' at the top of the page.



でも目がまだ腫れてる

くすぐってえ...

...ソロ



んー...



すまねえ

泣かしちまったな



ん？

うん...
そもなにか

それだけじゃねえんだ

なんかな...
なんだろう



次は
ちゃんとする

はは...
たのみます

さっき

ずっと
ゾロの体見てたら
なんか

ちょっと
怖くなって

なんだろう
あれは

ないような

見たこと
あるような

でも何か
わからないから
ずっと見てたら

七くした方の
目が熱くなって

どうして

怖いのに

段々懐かしく
なってきた

涙が出た…

あいな

おれその後

怒らないで
聞いてくれな

ゾロに食べられたい
って思ったんだ



泣きながら

おまえに
食べられたい
くらい

ずっと一緒にいたい

好きだゾロ

好きだ

その晩サンジは夢をみました。



ゾロと同じ模様を持つ
金色のけものに
食べられる夢でした

食べられる自分は
今よりずっと小さく

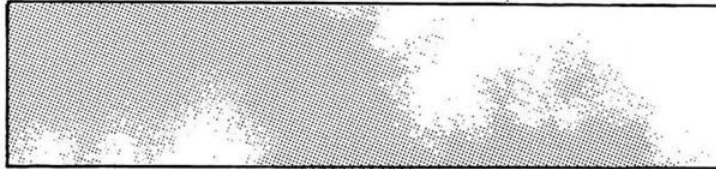
まだゾロと出会う前の
ほんの小さな頃の姿でした



そしてまた何度目かの
春がやってきました

その年ゾロとサンジは
とうとう19才に
なっていました。

その時、ゾロとサンジは



その日2匹の若いけものは
おとぎの森を後にしました。



春の日
幼い愛の抜け殻を残して
きらめく世界へ旅立った
とらときつねのおはなし。





suit man
hakoiri boy



sailor

cook





both comments

cinna; <http://www40.tok2.com/home/cinnamon/onepiece/>
cinna59@hotmail.com

ticori; <http://go.fc2.com/yow>
yumenocima@hotmail.com



むかし飼っていた猫の名前は、「チボ」でした。

何で「チボ」かという、「チンコボーイ」の略でした。

女の子だったら「マンコガール」の略で「マガ」にする予定でした。

こんにちは。もしくは初めまして。ヒガシシナカイのシナです。

そんな骨の髄まで腐りきった変態のわたしが、心の奥底に秘めた最後のメルヘン魂をかき集めて再びメルヘンに挑戦しました。

ちょっとだけ、地獄を見ました。

伊藤さんには自分から合同誌の話振ったくせに、表紙やら編集やら入稿やらめんどうくさいことを全部押付けて、ほんとうに合わせる顔もないぐらいごめんなさい。

楽しかったです。ありがとうございました。

仔狐サンジの胸毛に寄せて

ヒガシシナカイ シナ拝

シナさんは実際粘着系の変態なのに書くものはこいつら100%メルヘンでずるいと思います。こんにちわの方もはじめましての方もお手に取って下さりありがとうございます。伊藤です。

合同誌のお誘いをしたのは私だと思ってたんですが記憶違いだったのかな。

初めての虎狐にやる気だけはまんまだったのですが実際はとても難しくて困りました。

でも楽しかったです。

メルヘンメーカーの、こちらも初めての虎狐小説というご褒美もあったので！ね！

取り敢えず終わってみての感想は

大好きな方の隣に並んで恥ずかしくない自分になろう……！

に尽きました。

またそのうち何か一緒にできたらいいなあと思います。

シナさん目をそらさないで。

虎狐は楽しいなあ！もっと早くはまりたかったです。

読んで下さった方とシナさんに両手じゃ抱え切れないほどの感謝と愛を。

しーゆーねくすとめるへん…！（えっないの？）

ドーピングのしすぎでおえおえお

ゆめぎわたまむし 伊藤ちこりりでした

2004年3月21日発行 おとぎの森のとらきつね

発行：ヒガシシナカイ/夢際玉虫

印刷：プリンプリント様



Thank you for reading, may we see you next fairy tale.



TORAKITSUNE in Otagi Forest

